

一般財団法人  
中本達也・臼井都記念

# 芸術資源館

N&U Art Foundation



## 創立5周年 活動報告

いのちへの謙虚さと優しさを  
理事長／館長挨拶

芸術資源館のあゆみ  
中本達也・臼井都の仕事  
アトリエ案内  
活動・事業紹介  
みんなの居場所・みんなで守り継ぐ  
くにたち物語

## いのちへの謙虚さと優しさを



### 二人の芸術家から受け取ったバトン

芸術資源館は、洋画家の中本達也と臼井都が、約70年前に建てたアトリエ兼住居です。当時は物資が乏しかったため、近所の農家から分けてもらった廃材を使って、仲間たちと共に自力で少しずつ今の形に作り上げました。その後、二人は子どもの絵画教室を始めます。そこは自由と発見と笑顔が溢れる場所でした。2020年、当法人を設立。翌年、芸術資源館として一般公開しました。「いのちへの謙虚さと優しさ」を伝え続けた二人の意思を未来へと繋げるために、芸術を中心に誰もが自分らしく安心して集える場として地域に開いています。

### 理事長 / 館長挨拶



戦争の時代を生き抜いた画家・中本達也と臼井都の作品からは、人間性やあらゆる生命に対する実直な姿勢が伝わってきます。また、戦後の浮き足立った風潮に抗うように、廃材を集め自らの手で作った建屋は、人間らしい社会の再生への思いが込められています。不寛容と不信に苛まれる現代社会に、二人の探究した芸術が希望への微光となることを願い、またその礎になることが、芸術資源館の使命だと考えています。

理事長 / 館長 近藤幸夫 (美術家・哲学博士)

## 芸術資源館のあゆみ

1922	中本達也 生まれる (山口)	
1925	臼井都 生まれる (東京)	
1950	中本・臼井 現国立市へ移住 ・アトリエ兼住居を自力で建て始める ・絵画教室を始める。以降、2015年まで継続	
1973	中本達也 死去 (51)	
2019	臼井 高齢者介護施設 入所 ・アトリエの建て壊し決まる	
2020/7	一般財団法人 中本達也・臼井都記念 芸術資源館 設立 ・アトリエと敷地を購入、有志による自力での修復 開始	
2021/4	一般公開 開始	
/7	子ども絵画教室・日本画教室 開始	
/11	ガーデンギャラリー 完成	
/12	臼井都 死去 (97)	
2022	ナイトレクチャー「戦争と芸術」シリーズ 開始 多摩AFAプロジェクト「さわる・つくるプロジェクト」出前講座 開始 ガーデンギャラリー Wings of Peace プロジェクト 中本達也生誕 100年企画展示	
2023	国立市「多様な学びを支える活動団体支援」補助金対象 出前講座事業 実施 ピノッキオ人形劇団 公演 中本達也研究 開始	
2024	くにたち市民コラボフェスタ アート展示・講演	
2025	絵本作家 アンナ・ウルチ「アンナの世界」展 開催 くにたちさくらフェスティバル 出店・ワークショップ 国立市登録文化財候補として審議中	

Tatsuya Nakamoto

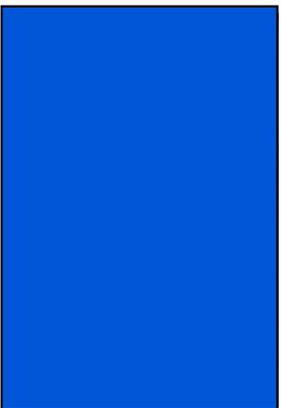
## 中本達也

1922-1973

山口県出身。建築を学んだのち美術に転向し、帝国美術大学（現 武蔵野美術大学）に入学。卒業後すぐに学徒出陣で戦地へ。戦後、一度は故郷に戻ろうとするも、絵画への情熱を再認識し東京で創作活動を再開。舞台美術、挿絵、油画と多彩な仕事ぶりを発揮し、1959年 画壇の芥川賞とも言われる「安井賞」を受賞する。1970年 多摩美術大学油画学科教授就任。期待されながら、1973年 51歳で早世。昭和の著名な作家たちに変えられ、挿絵・装画の仕事は数百冊以上。天才肌で、多くの人を惹きつける魅力に溢れていた。また動物が大好きでたくさん動物と暮らし、飼い猫がいなくなった際はひどく嘆き、無事戻ると大喜びした。



右下 / 「人間の島」部分 (1968年)

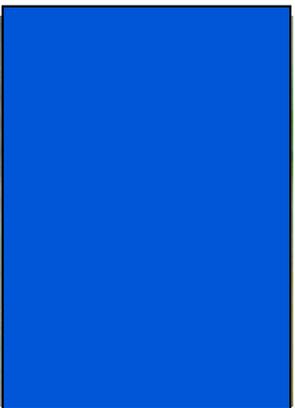


Miyako Utsui

## 臼井都

1925-2021

東京都出身。1947年 女子美術専門学校（現 女子美術大学）卒業。1955年 自由美術協会展 優秀作家賞を受賞する。1974年 美術ジャーナル大賞 受賞。『ピノキオのぼうけん』（福音館書店）や『NHK さよの料理』（日本放送出版協会）などの挿絵や装画を手がける。生命の象徴である木の実や種を好んで主題にし、一途な情熱と謙虚な心を持ち続けた作家だった。アトリエでの絵画教室は70年にわたり、多くの子どもたちに美術の楽しさと生命の尊さを教え続けた。



上 / 「葉」(1974年)



外観 入り口側（中本アトリエ）

安定した明るさを得るために北側が窓になっているのが特徴。



創建当時のアトリエ（1951年頃）

ここから少しずつ増改築を進め1956年頃に現在の形になった。



中本アトリエ

15帖ほどの広さと5mの天井。柔らかな光が差し込む。隠れ家的な屋根裏部屋は、かつて梯子で登れるようになっていた。



台所と食堂

両アトリエの真ん中にある生活スペース。最小限かつ使いやすい。量部屋と隣接している。



小上がりの量部屋

床から73センチ上げることで収納スペースを確保。元は個室だが、今は図書室として使用。



臼井アトリエ

中本アトリエより少し小ぶりの作り。天窓の棟木を変える丸木の柱が印象的。南側は庭へと開けている。



ガーデンギャラリー & 庭

旧国立駅舎と富士見台団地アトリエの廃材を活用した屋外ギャラリー。庭のコブジは50年間、アトリエを見守ってきた。



再建前  
アトリエ



施設紹介

## 活動・事業紹介

### 所蔵展示

作品の所蔵と展示  
芸術資源館・ゲーテンギヤラー企画展  
共同企画展  
作品の貸出

### 研究創作

所蔵作品・資料の研究と修復  
自主制作スペース（夜間）  
画材の収集と再利用・  
自然素材リサイクル・リユース  
おもちゃ病院

### 国内外交流

絵画教室  
居場所としての空間  
美術専門書の図書スペース

### 学び集う

館内各種イベント・ワークショップ  
館外出張企画 Art For All

### 国立市補助金対象事業

国立市「子どもの居場所」事業  
「多様な学びを支える活動団体支援」出前講座事業

### 主な活動内容

緑側ワークショップ、子ども絵画教室、日本画教室、近藤幸夫 ナイトレクチャー  
多摩AFAプロジェクト「さわる・つくるプロジェクト」出前講座  
ゲーテンギヤラー Wing of Peace プロジェクト、中本達也生誕100年企画展示  
絵画修復ワークショップ（画家・修復家 / 太田美奈子氏）  
中本達也のアトリエ建築講座（建築家 / 酒井哲氏）  
宝塚芸術評論 講座（文筆家・演劇ジャーナリスト / 中本千晶氏）  
ピノッキオ人形劇団公演、中本達也研究  
シェアアトリエ&フォトサロン NU STUDIO  
くにたち市民コラボフェスタアート展示「いま、このとき」、講演「戦争と芸術」  
絵本作家 アンナ・クルチ展「アノナの世界」開催  
くにたちさくらフェスティバル 出店・ワークショップ



Instagram

## みんなの居場所 みんなで守り継ぐ



子どもの居場所担当  
山越邦夫

子どもが臼井先生にお世話になって、アトリエで絵を描いています。最初は水彩で毎週一枚、やがて油絵になって、それも数十枚。そんなルーティーンが彼には心地よかったのだと思います。日常とは違う場がある、その価値を思ってお手伝いしています。



ボランティア  
白帆子さん

子どもクラスのアシスタントをしています。子どもの背景を知った上で適切な距離感で接することを大切にしています。みんなでおやつを分け合ったりと家庭と公共施設の間のような場所かな。子どもたちが成長していく姿を見ることができるのは嬉しいですね。



ボランティア  
松崎ますみさん

子どもクラスの他に庭の管理も担当しています。時間がゆったりと流れていて、昔の武蔵野の雰囲気を感じさせてくれる空間です。ボランティアとして長年携わってききましたが、平等さや自由さが守られた居心地の良さがありますね。原風景の保存を目指していきたい。



子ども絵画教室  
生徒さん

近藤先生が図工や絵を描く前に（テーマに関する）お話をしてくれるので、それで知れることがある。絵が飾ってあったり、美術の本を見て描いたりできるのもいいと思う。自分が思うような絵が描けて、先生たちが、「いいね」って言ってくれた時は嬉しい。



子ども絵画教室  
保護者さん

工作などで使う素材が、工夫のしがいのある材料を使わせてくれる。例えば、駅舎の彫材を使ったり葉っぱを使ったり。既存のイメージではなく、オリジナルで自然界のものを作ることができる。子どもたちに来た喜びをいつばい味合わせてくれるのだからと思う。



日本画教室  
研究生さん

この建物には特別な雰囲気がある。作りも時間の積み重ねも、また実際に画家が使っていたアトリエであることも。そのような場所で絵を描けることが嬉しい。普段は自分のペースで好きな絵を描くことができ、挑戦したいことがある時は丁寧に教えてくれるのが有難い。

協力：国立市、(株)川島塗装、ニッポー設備(株)、トモスグリーン、庭づくり草道

こまつ電気、国立金文堂、くにたち地域コラボ

## くにたち物語

### はじまり

1950年2月、引っ越しの日、中本と臼井は国立駅に降り立ちます。友人の笠松氏も一緒でした。当時の国立駅は、駅前の商店街を抜けると野原と畑、松の雑木林ばかりの地でした。3人は雪の降った後でぬかるんだ道を絵具箱と最小限の家財道具を抱えて、新しい家へと歩いて行きました。「今後の生活に対する不安と希望が交錯する渦巻きの中に立っていた」と中本はのちに書いています。夜

になって笠松氏は帰って行きまし  
た。「暗がりの土間のところば  
んやりと座った妻は、ローソクの  
鈍い光を通してポロポロと涙をこ  
ぼしていた」、「私も何かグッとこ  
み上げて来たが『さあこれからが  
出発だ、やるぞ』などと空元気に  
怒鳴り続けていた。そうして私達  
の生活が息づき始めたのだ」。

ひと月程して笠松氏が家を訪ねると、全ての窓ガラスには絵が、

柱には彫刻が施され、土間は板敷の部屋になり屋根裏部屋も出来ていました。その後、二人は近所の子ども達を集めて絵画教室を始めます。中本は人形劇団を立ち上げ、そろって創作に励み、気づくと芸術仲間や弟子、学生、子ども達が賑やかに集う彼らなりの芸術コミュニティが国立の地に誕生して

＊参考文献 『我が家の動物史・上』中本達也  
(茶の間54号・1961年)

中本が描いた  
アトリエの構想スケッチ



創建当時、アトリエの扉だったと思われる彫刻



## ご支援のお願い

日頃より私たちの活動をご支援くださり、深く感謝申し上げます。皆様のご協力により当法人は成り立っています。これからも、中本・臼井の意思を引き継ぎ、作品や建物を保存展示し、また、芸術を中心に誰もが自分らしく安心して集える場であるよう努力してまいります。ぜひ、寄付・賛助会員加入（一口5千円）等、ご支援のほどよろしくお願い致します。

振込口座：多摩信用金庫 国立支店（普通）口座番号 3972562

口座名義：一般財団法人中本達也・臼井都記念芸術資源館

## 団体概要（2025年3月31日現在）

評議員5名、理事5名、監事1名、賛助会員27名

資産：アトリエ土地 34,553千円

アトリエ建物・設備 1,196千円

現金資金 502千円

負債：短期借入金 390千円 長期借入金 16,650千円

＊令和7年現在 国立市登録文化財候補として審議中

開館日数 / 910日

来館者数 / 6,500人（子ども3,300人）

スタッフのべ / 1,500人

＊4年間（2022年4月～2025年3月）

制作：一般財団法人中本達也・臼井都記念  
芸術資源館

発行日：2025年4月27日

編集・デザイン：岡本ともこ

写真：岡本一也 / 岡本ともこ



・徒歩 20分  
・バス  
立川駅南口行き  
「東区」下車 5分

〒186-0002

東京都国立市東3丁目15番11

電話 042-507-5795

メール office@nu-art.tokyo

HP <https://www.nu-art.tokyo/first>

ホームページ

